

令和7年度

「運営に関する計画」



大阪市立新東三国小学校

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校は比較的、安全で落ち着いた学習環境であるが、さらに安全性を高めるためにハード面では、令和4年に遊具・のぼり棒の改修、令和5年に体育館の床とプールの底やプールサイドの改修、令和6年に防火扉の改修を行った。ソフト面では、いじめ、不登校などを保護者、地域とも連携しながら解消あるいは未然防止すること等について、推進していく必要がある。

- ・令和6年度の大阪市小学校学力経年調査では、社会(3、4、5年)・算数(3年)・理科(3年)が大阪市の平均点を上回った。国語科では、記述問題(5、6年)や「書く」領域(5、6年)について、大阪市平均を上回っていた。しかし、4年は3科目(国語、算数、理科)で大阪市の平均点を下回っていた。また、国語「読む」領域(3、4、5年)も大阪市の平均点を下回っており、課題が見られた。

- ・体力面については全国体力・運動能力、運動習慣調査において、体力合計点について女子は大阪市平均、全国平均を上回ったが、男子は下回った。男子については、握力、長座体前屈のみ、大阪市平均、全国平均を上回った。女子については、握力以外の種目すべて大阪市平均、全国平均を上回った。体力面については、特に男子に課題が見られたので、課題解決の取組が必要である。

- ・「全国学力・学習状況調査」の結果より、平均正答率は、国語科、算数科ともに全国平均、大阪市平均を下回った。しかし、無解答率は、国語科は全国平均を下回ったが、算数科については大幅に上回った。あきらめずに最後まで取り組もうとした姿勢がうかがえる。国語科では、知識及び技能については「我が国の言語文化に関する事項」が最もよくできており、「情報の扱い方に関する」項目が最も低く、全国平均より12ポイント下回った。思考力、判断力、表現力については、「A 話すこと・聞くこと」「C 読むこと」は全国平均を上回ったが、「B 書くこと」については、全国平均より12ポイント下回った。算数科は、どの領域、観点においても全国平均と大阪市平均に届かなかった。ほとんどの領域、観点において全国平均と大阪市平均に2～4ポイント届かなかったが、その中で「C 変化と関係」は全国平均より7.7ポイントと大きく下回った。

- ・学力向上支援チーム事業(SA事業)等を活用し、国語・算数・理科の授業力向上を図り、児童の学力向上をめざす。

- ・道徳科の授業研究を進めることで、教職員の指導力向上を図り、「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりを推進する。

- ・学校のきまりである「廊下・階段を走らない」「右側通行」の徹底を図るために、いろいろな場面での声かけに努めるようにしたが、十分とはいかない。階段に英語や九九のプレートを貼り、右側を意識できるようにしているが、さらに視覚的に「右側通行」を意識できるようにする必要がある。学校のきまりにおいては、継続しての指導が必要である。

- ・若手教員が増加しているので、若手教員育成を推進する必要がある。「学力向上支援チーム事業」のスクールアドバイザー(SA)と連携し、OJT(校内研修)の活性化を図る。

- ・インフルエンザや感染症等による学校行事等への影響がある中での学力保障を図る必要がある。

一人一台学習者用端末の持ち帰りやデジタルドリルの活用を図っていく。

- ・地域や保護者との連携のしかたを検討する。

(デジタル教材の活用・保護者への周知・地域の方との協働による防災活動等)

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

○令和 7 年度の児童アンケートにおいて「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目で、肯定的に回答する児童の割合を 92%以上にする。(R6 89.3%)

○令和 7 年度の全国学力・学習状況調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を、令和 3 年度 (94%) と同様に維持する。

→令和 7 年度の小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 73%以上にする。(R6 72.2%)

○令和 7 年度の全国学力・学習状況調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 90%以上にする。

→令和 7 年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 81%以上にする。(R6 80%)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○令和 7 年度の大阪市小学校学力経年調査において、全学年、全科目の 9 割以上で大阪市の平均点を上回る。

○令和 7 年度の英検 Jr. において、ブロンズ級受検者、シルバー級受検者の 80%以上が合格標準点を取る。そのことにより、高学年ではゴールド級受検者が 5 %以上になるようにする。

○令和 7 年度の全国学力・学習状況調査・国語科の「思考・判断・表現」に関する項目の平均正答率を、令和 3 年度 (56.9%) より 5 ポイント増加させる。

○令和 7 年度の全国学力・学習状況調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を、令和 3 年度より 3 %増加させる。(R3 94%)

→令和 7 年度の小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 73%以上にする。(R6 72.2%)

【学びを支える教育環境の充実】

○デジタル教材を活用した学習を週 2 回以上実施する。

○「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 1 を満たす教員の割合を 80%以上にする。

→R7. 85. 8%以上にする。(R6 85. 7%)

○令和 7 年度の小学校学力経年調査・校内調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、76. 5%以上にする。

○令和 7 年度末の保護者アンケートにおける「学校は、保護者の思いや願いを生かすよう、努めている」の項目について、肯定的に回答する保護者の割合を令和 3 年度 (79%) より 5 ポイント増加させる。→ (R7 84%目標) (R6 81%)

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

- ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 81%以上にする。(R6 80%)
- ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
(R5 5.3%→R6 5.0%)
- ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。
(R5 1.1%→R6 1.7%)
- ・年度末の児童アンケートにおいて「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目において、肯定的回答を例年同様に 90%以上を維持する。(R6 89.5%)
- ・年度末の児童アンケートにおいて「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。(R6 79.4%)
- ・年度末の児童アンケートにおいて「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 90%以上を維持する。(R6 98.6%)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 36%以上にする。(R6 35.2%)
- ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.01 ポイント向上させる。
- ・小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。(R6 74.9%)
- ・小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。(R6 68.7%)
- ・小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を 67%以上にする。
(R6 66.6%)
- ・小学校学力経年調査における「国語(算数)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を昨年度と同等以上にする。(R6 国語 64.9%、算数 52.8%)
- ・漢検の合格率を昨年度と同等以上を達成する。(R5 74.3%→R6 69.1%)
- ・英検 Jr.を4年生以上の児童が受検し、ブロンズ、シルバー、ゴールドの各級受検者の平均点が、それぞれ全国の平均点並みにする。R6 ブロンズ(本校 81、全国 81)、シルバー(本校 84、全国 84)、ゴールド(本校 78、全国 74)
- ・複数の小学生新聞を活用し、朝学習等で視写に取り組む。小学校学力経年調査における「学校の授業などで、自分の考えを文章に書くことは難しいと思いますか。」に「そう思わない」(難しいと思わない)「どちらかといえば、そう思わない」(どちらかといえば、難しいとは思わない)と答える児童の割合を 41%以上にする。(R6 40.6%)

【学びを支える教育環境の充実】

- ・授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数を、年間授業日の 50%以上にする。(R6 20.1%) ※1 年生は2学期から開始する。
- ・第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 1 を満たす教員の割合を 85.8%以上にする。(R6 85.7%)
- ・学習者用端末を活用した学習を週 2 回以上実施する。
- ・児童アンケート「道徳科の学習で、しっかり考えることができた」の項目で肯定的回答を昨年度と同等以上にする。(R6 94%)
- ・校内研修を活性化させ、若手も経験年数の多い教員も一丸となって「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりを推進する。
- ・「特色ある図書館の活用」の実現を図る。
- ・読書活動の推進を図り、児童アンケート「本をよく読んでいる」の項目において、肯定的回答を昨年度と同等以上にする。(R5 71%→R6 71%)
- ・生涯学習ルームや地域活動協議会との連携による安全で安心な教育コミュニティを形成する。

【その他】

3 本年度の自己評価結果の総括

大阪市立新東三国小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を81%以上にする。(R6 80%) ・ 年度末の児童アンケートにおいて「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を90%以上を維持する。(R6 98.6%) ・ 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 (R5 5.3%→R6 5.0%) ・ 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 (R5 1.1%→R6 1.7%) ・ 年度末の児童アンケートにおいて「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目で、肯定的回答を例年同様に90%以上を維持する。(R6 89.5%) ・ 小学校学力経年調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を同等以上にする。(R6 91.5%) ・ 年度末の児童アンケートにおいて「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。(R6 79.4%) 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>「学校安心ルール」の徹底を行い、児童が安心して過ごせる教育環境の実現を図る。 (安全教育の推進)</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ いじめアンケートを年3回行い、「ある」と回答した児童に聞き取りをしたり、集団へ指導したりすることを100%行う。すぐに解決できない事案については、いじめ対策委員会に報告し、いじめの解消に向けて全教職員での取組を100%行う。なお、必ず記録を残す。 ・ 一人一台学習者用端末の相談機能を毎日確認し、相談があった場合は100%対応することでいじめ等の早期解決を図る。 ・ 毎月の生活指導連絡会や子どもサポートネットやケース会議で児童の様子を報告し、共通理解を図り、組織的に課題への対応にあたる。 ・ 7日連続欠席者に対して、家庭訪問による安否確認及び欠席理由の確認を必ず行う。 	
<p>取組内容②【基本的な方向2、豊かな心の育成】</p> <p>異学年交流や係活動、委員会活動や道徳教育、地域交流などを通して、児童が自分のよさに気付く体験の場を設ける。(道徳教育の推進、人権を尊重する教育の推進)</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各委員会が児童会目標の達成に向けた活動を年1回以上企画・運営する。 	

<ul style="list-style-type: none"> ・全学年で、異学年交流を年に５回以上行う。 ・児童会を中心として、地域や保護者と連携し、あいさつ運動を年３回行う。 <p>年度末の児童アンケートにおける「気持ちのよいあいさつをしている」の項目について、肯定的回答を８０％以上にする。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>次年度への改善点</p>	

大阪市立新東三国小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 36%以上にする。(R6 35.2%) ・ 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.01 ポイント向上させる。 <p>(令和 6 年度</p> <p>6 年 : R 5.5 年時 国語 (1.01) 算数 (0.97) 理科 (0.92) →R6.国語 (0.94) 算数 (0.75) 理科 (0.89) 国(−0.07 p)算 (−0.22p) 理(−0.03p)</p> <p>5 年 : R 5.4 年時 国語 (0.89) 算数 (0.88) 理科 (0.94) →R6.国語 (0.95) 算数 (0.98) 理科 (0.95) 国 (+0.06 p) 算 (+0.1p) 理 (+0.01p)</p> <p>4 年 : R 5.3 年時 国語 (0.98) 算数 (1.10) 理科 (1.00) →R6.国語 (0.92) 算数 (0.97) 理科 (1.05) 国 (−0.06 p)算 (−0.13p) 理 (+0.05p)</p> <p>※小学校学力経年調査における国語・算数・理科の平均正答率の対全国比を同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.1 ポイント以上向上させるという目標であったが、達成したのは 5 年の算数だけであった。しかし、0.01 ポイント以上向上していたのは、5 年国語、算数、理科、4 年理科であった。</p> <p>【参考】 現 3 年 : R 6 国語 (0.95) 算数 (1.08) 理科 (1.03) 算数と理科が全国平均を超えていた。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 75%以上にする。(R6 74.9%) ・ 小学校学力経年調査における「外国語 (英語) の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 70%以上にする。(R6 68.7%) ・ 小学校学力経年調査における「運動 (体を動かす遊びを含む) やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を 67%以上にする。(R6 66.6%) ・ 小学校学力経年調査における「国語 (算数) の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を昨年度と同等以上にする。(R6 国語 64.9%、算数 52.8%) ・ 漢検の合格率を昨年度と同等以上を達成する。(R6 69.1%) ・ 児童アンケート「英語が楽しい」と回答する児童の割合を昨年度と同等以上にする。(R6 87.4%) 	

<ul style="list-style-type: none"> ・英検 Jr. を 4 年生以上の児童が受検し、ブロンズ、シルバー、ゴールドの各級受検者の平均点が、それぞれ全国の平均点以上になるようにする。 R6 ブロンズ（本校 81、全国 81）、シルバー（本校 84、全国 84）、ゴールド（本校 78、全国 74） ・さまざまな学習で視写の活動に取り組む。小学校学力経年調査における「学校の授業などで、自分の考えを文章に書くことは難しいと思いますか。」に「そう思わない」（難しいと思わない）「どちらかといえば、そう思わない」（どちらかといえば、難しいとは思わない）と答える児童の割合を 41%以上にする。（R6 40.6%） ・「学校では、食べ物や栄養について学んでいる」という項目の肯定的な回答割合を昨年度と同等以上にする。（R6 92%） ・児童アンケート「そうじはいつも丁寧にしている」の肯定的回答を昨年度と同等以上にする。（R6 93%） ・毎週の清潔調べで、ハンカチ・ティッシュを持ってくる児童の割合を 90%以上を維持する。（R6 ハンカチ 92%、ティッシュ 91%） 	
<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p>	<p>進捗状況</p>
<p>取組内容①【基本的な方向 4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>学力向上支援チーム事業（SA 事業）等を活用し、国語・算数・理科の授業力向上を図り、児童の学力向上を図る。</p> <p>（言語活動・理数教育の充実）（「主体的・対話的で深い学び」の推進）</p> <hr/> <p>指標 ・学力向上支援チーム事業(SA 事業)等を活用した研修を年間6回以上実施する。</p> <p>・国語・算数・理科の授業で話し合う活動を設定する。年度末の国語・算数・理科を授業する教員への聞き取り調査で「授業回数の 7 割以上話し合う場を設定できた」と回答する。</p> <p>（※10 回授業のうち、7 回話し合う場の設定ができていればよい。）</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向 4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>・漢字検定に向けた取組を受検する全学級で実施する。</p> <p>・国語科などの学習で、文章のまとまりや書き手の考えをノートに書き写す時間を設定したり、自分の考えやわかったことを書く時間を設定したりする。</p> <p>・継続して全学年で英語音声指導に取り組むと共に、英語タイムの指導法・教材等を工夫する。また、児童の英語力を向上させ、英語が楽しいと感じられるようにする。</p> <p>（英語教育の強化）</p> <hr/> <p>指標 ・家庭学習等を活用した漢検への取組を 5 回以上実施する。</p> <p>・国語科などの学習で試写や自分の考えを書く時間を各単元 1 回以上実施する。</p> <p>・英語タイムを週 2 回以上実施する。</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向 5、健やかな体の育成】</p> <p>子どもたちの健康増進のために、様々な取組を進める。体を動かすことに喜びを感じ、進んで体力づくりに取り組む子どもを育てる。また、「食に関する指導の年間計画」に基づき、食に関する児童の興味・関心を高める。睡眠・清掃などの生活習慣などに焦点をあて、日々の生活を見つめられる子どもを育てる。</p> <p>（体力・運動能力向上のための取組の推進）</p>	

<p>指標</p> <p>【運動】・児童が多様な運動種目にふれ、興味・関心をもって積極的に運動に親しめることができるように、年5回以上の運動週間(マッスル週間・かけ足週間・なわとび月間)を設定する。</p> <p>【食育】・学年ごとに作成する「食に関する指導の年間計画」に基づき、学年ごとの目標を設定し、年間3時間程度の食育の学習を行い、食に関する児童の興味・関心を高める。</p> <p>・各学級で給食目標や給食だより等を用いて、食に関する指導を月1回以上行う。</p> <p>【清掃】・委員会児童による清掃チェックを学期に1回以上行い、環境整備に努め、清掃を進んで行う児童を育てる。</p> <p>【健康】・各学級で保健だよりや保健の月目標等を用いて、健康に関する指導を月1回以上行う。</p> <p>・健康的な生活習慣について、児童や保護者の意識を高めていくために、「生活ふりかえりカード」を活用した取組を年に2回行い、保健だよりで結果を知らせると共に、児童へ指導する。</p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

大阪市立新東三国小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数を、年間授業日の50%以上にする。(R6 26.6%) ・第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を85.8%以上にする。 (R5 70.8%→R6 85.7%) <p>(※基準1 次のア及びイの基準を満たすこと ア 1か月の時間外勤務時間が45時間を超えないようにする。 イ 1年間の時間外勤務時間が360時間を超えないようにする。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習者用端末を活用した学習を週2回以上実施する。 ・児童アンケート「道徳科の学習で、しっかり考えることができた」の項目で肯定的回答を昨年度と同等以上にする。(R6 94%) ・校内研修を活性化させ、若手も経験年数の多い教員も一丸となって「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりを推進する。 ・「特色ある図書館の活用」の実現を図る。 ・読書活動の推進を図り、児童アンケート「本をよく読んでいる」の項目において、肯定的回答を昨年度同等以上にする。(R5 71%→R6 71%) ・生涯学習ルームや地域活動協議会との連携による安全で安心な教育コミュニティを形成する。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向6、教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】</p> <p>ICT機器の活用を検討工夫し、考えを表現するためのプレゼンテーションを行ったり、一人一台学習者用端末を活用した学習に取り組んだりする。(ICTを活用した教育の推進)</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を活用して、自分の考えをプレゼンテーションしたり、他者の考えを受けて、意見交流する場を設定したり、デジタル教材を活用したり、プログラミングに取り組んだりする総時数を、1年は年間10時間以上、2～3年は年間12時間以上、4～6年は年間15時間以上実施する。 ・全学年において一人一台学習者用端末の活用方法を工夫し、新たな取組を行う。 	
<p>取組内容②【基本的な方向7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>「学校園における働き方改革推進プラン」にそって、負担軽減に向けた様々な取組を推進する。(働き方改革の推進)</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゆとりの日を月4回以上設定する。 	

<p>取組内容③【基本的な方向 7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 道徳科の授業研究を進めることで、教職員の指導力向上を図り、「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりを推進する。 ・ 全員公開研究授業の中で、お互いに学びあい、日々の授業改善に生かしていく。 (教員の資質向上) 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 道徳科の授業研究を年間 6 回以上実施する。 ・ 児童アンケート「道徳科の学習で、しっかり考えることができた」の項目で肯定的回答を昨年度と同等以上にする。(R6 94%) ・ 全員公開研究授業を年間 1 回以上行う。 ・ メンターを中心に、指導法の研修・研究を進め、年間 10 回以上の公開研究授業を実施する。 ・ 日々の授業改善につなげるために、研究討議会で話し合ったことを 100% 記録・整理する。 	
<p>取組内容④【基本的な方向 8、生涯学習の支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「特色ある図書館の活用」を実践するために、委員会による学校図書館の毎日開館や地域ボランティアの協力を得ながらの朝の読み聞かせ等を実施する。 ・ 「読書ノート」の活用や月ごとに読書目標達成者の表彰や発表等を行い、読書活動の推進を図る。 (学校図書館の活性化) 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校図書館の開館日数を授業日の 90%以上にする。 ・ 朝の読み聞かせを月 1 回以上実施する。また、年 2 回以上、読書週間を実施する。 ・ 「読書ノート」の達成者を昨年度と同等以上にする。(R5 14 人→R6 63 人) 	
<p>取組内容⑤【基本的な方向 9、家庭・地域等との連携・協働した教育の推進】</p> <p>生涯学習ルームや地域活動協議会との連携による安全で安心な教育コミュニティを形成する。 (教育コミュニティづくりの推進)</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の方々との交流を全学年で立案し、90%実施する。 ・ 地域や保護者との協働行事として、防災訓練、引き渡し訓練、新東三国イングリッシュデイを計画的に実施する。 	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>次年度への改善点</p>	

